

宣 告 破 産 的 假 面 的 民 主 的 当 局 渡 瀬

！ 質 的 深 化 の 更 進 的 争 争 ！

全中大の学生、院生、教職員諸君。

昨日、学長―協議会団交が約二十名の学友の結集の下かちこられ、その場において渡瀬―当局の民主的ポーズの疑義性は徹底的にあばかれた。104以降、^①常駐を背景として当局は強権的に正常化路線をおしすすめてきた。それに対して我々は理工系の先進的学友と連帯し、当局のこのような姿勢を追求し、中大の質的転換をかちとるが第一として統一団交を要求してきた。非論理的な条件等でもって団交を引きのばして来た当局は昨日や、と我々の前に姿をあらわした。「こんなにも集まると思わなかった」といった失言の本音、^②にみられる通り、彼らは斗争の收拾と正常化路線完成のための偽意とするために我々の団交に応じたのである。しかしながら彼らの二のよ様な意図は圧力的学友の怒りのままに粉砕されつづいた。「いつでも、何人の学生とも話し合う」といった^③学生対策部長のいざんとしたやまんの居直り（彼らは、^④の国交の一方的破産にみられるように、今だから一度も我々とも話し合、たことはない）ロクワアウト中に段青―秩序派諸君を支援してひういた法學部学生大会、物理三回生の学友に対する、^⑤と一体となったスト破り、医学部における（とりわけ厚生学院生に対する）ハシニ十極まりなり弾圧等、にみられるように、当局の権力と一体となった者が全大衆のまににバリ口された。まさに渡瀬―当局は権力と一体となつて、70年代へ向けこの大学の帝國主義的再編をいなし、斗争の学生に対する圧殺をおしすすめてつあるのだ。我々！当局の民主的假面に破産の宣告を。論理的に破産し、居直るだけの当局に対して論理性を求めたことはない。斗争の更なる質的深化をかちとり、当局の暴力的学生統治体制を粉砕せよ。

12月7日(火)の第2回団交に向け各クラスで討論、ストをキッカケを。

ストはストで闘い